沖縄県宮古島市池間漁港
PR資料

池間漁港の概要（現状と課題）

[地域の概要]

○宮古島の北西約1.5kmの位置にある池間島は、宮古島から池間大橋を渡って来島できる。

○島の北方5～15kmの海域には「八重干瀬（やびじ）」と呼ばれる県内最大級の卓状サンゴ礁群が広がっており、ダイビング等を目的とした観光客が来島する。

○

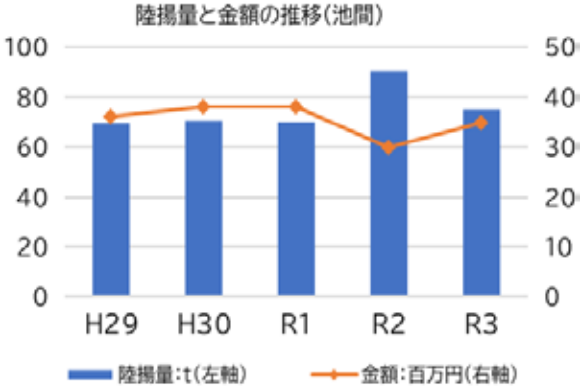
[漁業の概要]

○宮古島周辺は熱帯海洋域に属し、黒潮の流れに隣接し漁場が近く、水産業の立地条件である。

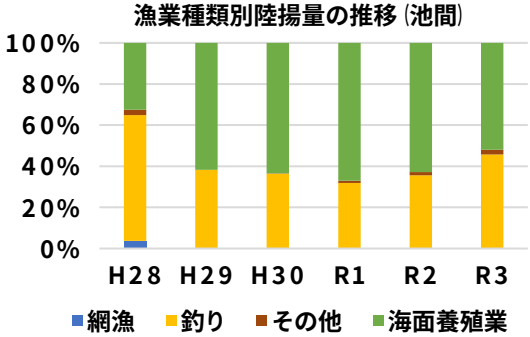
○漁港機能が優れており、避難港としての機能、ソデイカ漁等の拠点港として機能している。

○宮古圏域の水産業は、沖合では浮魚礁（パヤオ）を利用したパヤオ漁業（流し釣り、竿釣りの他、モズク養殖等も行われている。

○漁協では組合員数の減少や高齢化が進み、新たな担い手や後継者不足が課題である。



池間漁港陸揚量(t)と金額(百万円)



池間漁港魚種別陸揚量の推移

出典：漁港港勢調査（R3）を基に作成

［池間島の観光概要］

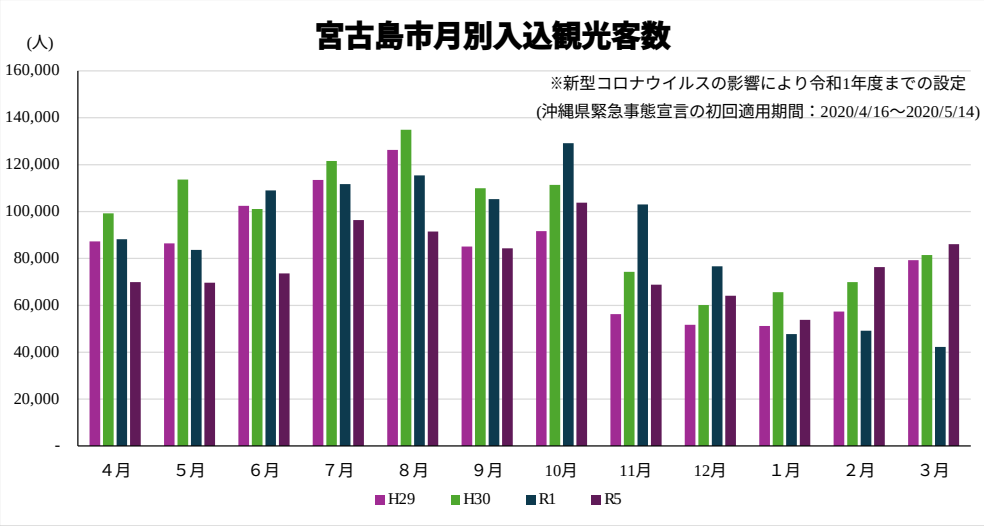
○池間島は宮古空港から車で約30分で来島でき、八重干瀬でのシュノーケルやダイビングツアー等が人気の地域である。

○宮古島には関東からの来島が51.1%と最も多く、来島した島は宮古島（98.9%）に次いで「伊良部・下地島」（75.8%）、「来間島」（63.7%）、「池間島」(60.9%)

〇宮古島を訪れる観光客数は、年間938,162人(令和5年度)となっている。

〇島内での観光客の滞在時間が少なく、また滞在可能な飲食店、土産物が少ないことが課題

〇マリンレジャー等で来島する観光客に対する昼食（弁当など）を販売する店舗やシャワー、トイレなどの施設が少ないことが課題



宮古島市の観光客数の推移

出典：令和5年度版統計宮古島

八重干瀬

池間漁協HP:https://miyakojima-ikemagyokyo.com/report/report1441

池間漁港の特色と漁港活用のコンセプト（案）

■池間漁港の特色（SWOT分析）

強み（内部環境）

・観光事業者と提携した漁船ツアー等を実施中（モニターツアー）
・加工場、直売所を新設予定
・サメ漁業（伝統漁）を実施
・サメ加工品の需要あり
・漁港機能が優れている（避難港、ソデイカ等の拠点港）
・海業に活用可能な用地確保可能
・モズク養殖が盛ん

弱み（内部環境）

・加工施設がない
・未利用魚を活かせていない
・地域ブランドの特産物がない
・避難船の乗船員の休憩・宿泊場がない
・組合員の高齢化
・新たな担い手や後継者の問題
・漁港の一部が駐車場として観光客に使用されている
・観光客用のシャワー、トイレ施設が少ない

機会（外部環境）

・ダイビングスポット（八重干瀬）
・地元住民の協力
・伝統行事、歴史が豊富
・宮古島の観光客増加
・リゾート開発に伴う高所得世帯の来訪増加
・八重干瀬以外にも、旧水門、湿地展望台、ナカマグスク、ビーチなどの島内観光資源が豊富
・八重干瀬センターに空スペースあり
・池間食堂が漁港に隣接している

脅威（外部環境）

・飲食店、土産物が少なく、島内で滞在・立ち寄る場所が少ない
・ビジターセンターがない（島の観光窓口）
・観光マネジメント可能な人材、組織がない
・観光客の来訪がダイビングシーズンに偏っている（繁閑差が激しい）
・島内に人を呼び込む仕組みやお金を落とす仕組みがない
・八重干瀬のサンゴが減少傾向

戦略案

強み×機会

・観光コンテンツの拡充と漁業者の所得向上（八重干瀬漁船ツアー、グリーンツーリズム、伝統文化、サメ漁業体験等を活かしたツアー）
・加工場・直売施設の整備
・加工場を活用した特産品の開発
・池間食堂の活用

強み×脅威

・加工場や直売所での特産品開発、販売
・ビジターセンターの整備
・中間支援組織の設立や人材育成
・八重干瀬のサンゴ移植ツアーなどのコンテンツ

弱み×機会

・観光客を対象とした施設の拡充（シャワー、トイレ、等）による観光客の増加
・島内観光資源を活かしたツアーの拡充による観光客の増加、島内経済効果の上昇
・避難漁船の船員の簡易宿泊施設の整備による漁港機能強化

弱み×脅威

・飲食店や特産品販売による経済効果、観光客の増加
・観光客受け入れ態勢の強化（ビジターセンター、観光と島内資源を結び付けるシステム：中間支援組織等）
・サンゴの移植による保全と結び付けた体験

池間漁港の特色と漁港活用のコンセプト（案）

■池間漁港の漁港活用の課題・対策・効果

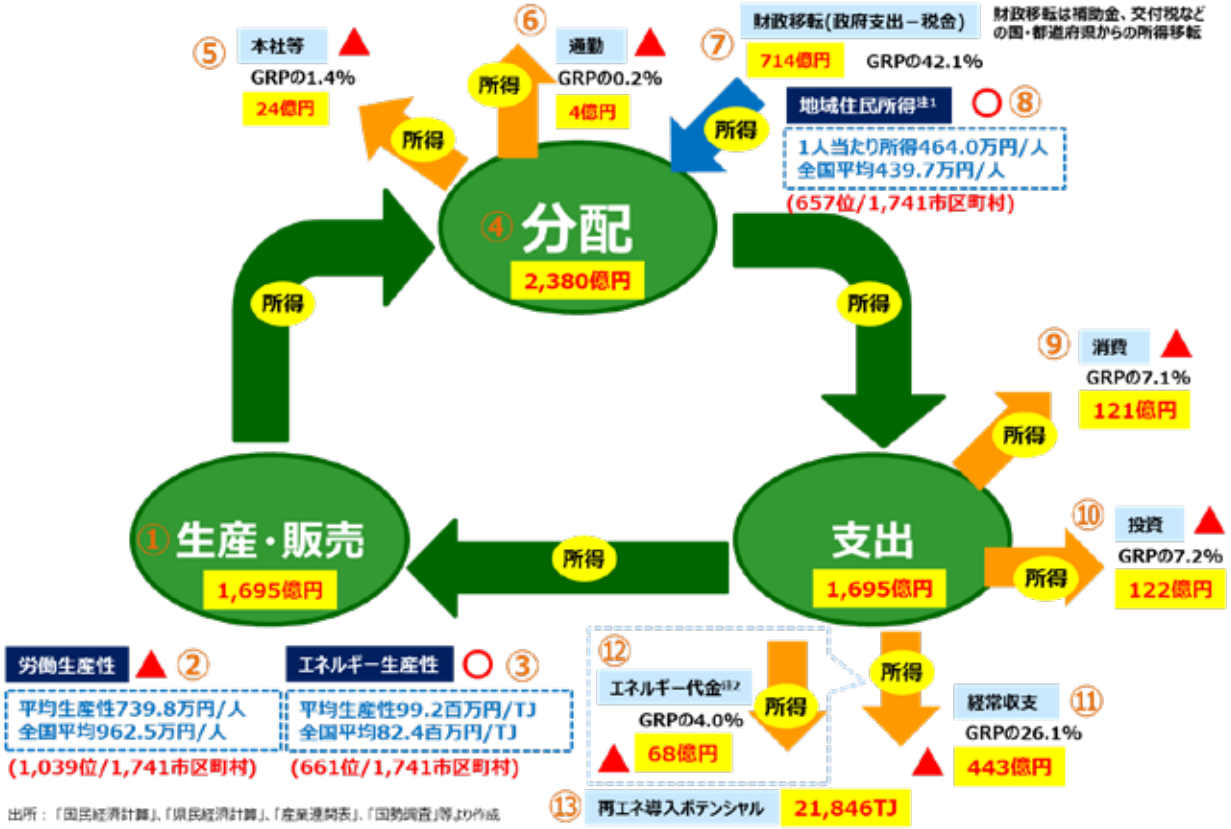
	課題	対策	短期的効果	中・長期的効果 （コンセプトの達成）
賑わい・観光	・島内への観光客の滞在時間が少ない ・島内への観光客数が少ない ・滞在可能な施設が少ない（飲食店、土産物） ・ダイビング客の昼食場が無い（弁当販売もない） ・観光客のシャワー、トイレなどの施設がない ・観光客受け入れ態勢がない ・人口が減少	・いけま食堂機能の強化 ・弁当などの軽食販売（ダイビング客対象） ・観光案内所やビジターセンターの設立 ・池間島マーケティング部の設立 →観光情報収集・発信 →体験メニュー企画・提案、コーディネート、マネジメント ・八重干瀬ツアーの強化 ・観光客用の駐車場整備 ・観光客用のシャワー、トイレ施設	・観光客の増加 ・滞在時間の延長 ・ツアー客の増加	・島内消費向上効果 ・集客効果 ・島内産品価値往生効果 ・漁港用地有効活用 ・漁協経営向上 ・地域の雇用の創出 ・関係人口の増加
漁業体験	・漁業体験メニューの拡充 ・モニターツアーでの実施にとどまっている ・サンゴ養殖施設が池間漁港に無い	・サメ漁獲体験メニューの確立 ・モズク収穫体験ツアー等の構築 ・サンゴ養殖等の環境教育体験メニューの構築	・観光客の増加 ・サンゴ（八重干瀬）の保全	・集客効果 ・環境資源保全効果
漁業生産	・加工場がない ・加工製品を販売する直売所が無い ・避難船の船員受け入れ施設がない	・旧漁協施設を解体し、新たな加工場を整備 ・鮮魚冷凍フィレ、サメ加工（肉、皮、肝油）の販売 ・加工場での特産品の開発と直売所での販売 ・簡易宿泊施設の設置（八重干瀬センター） →避難漁船船員用	・特産品の売上向上 ・魚価向上	・魚価向上効果 ・島内販路拡大効果 ・島内消費向上効果 ・漁協経営向上

[地域経済]

○宮古島市の生産･販売は、全体で1,695億円の収入がある。また、そのうち労働生産性及びエネルギー生産性は、全国平均より前者が222.7万円/人、後者が16.8百万円/TJ少ない状況にある。

分配は、全体で2,380億円の収入があり、そのうち財政移転が714億円の収入となっている。また、本社等が宮古島市でない企業への支出は88億円あり、宮古島市の地域住民所得は1人あたり464万円で全国平均よりやや高い結果となっている。

支出は、全体で1,695億円である。また、そのうち市外での消費が121億円、投資が122億円、経常収支が443億円、エネルギー代金が68億円流出している。

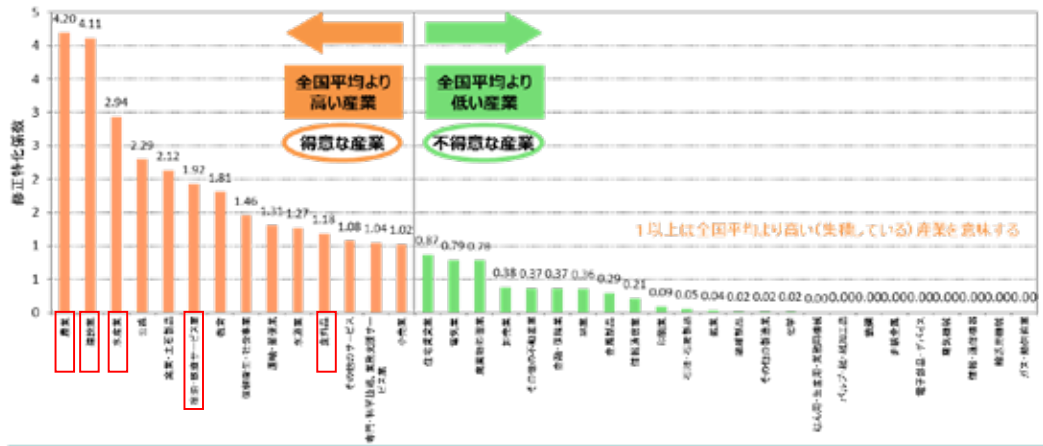


[地域経済]

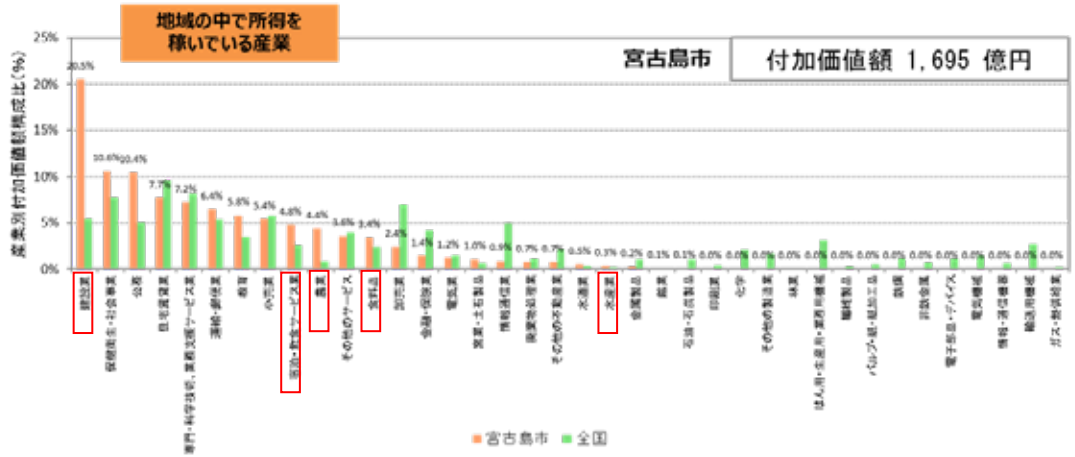
○宮古島市が全国と比較して得意としている産業は、農業、建設業、水産業、宿泊･飲食サービス業、食料品等であり、水産業の比較優位性は高い。

○付加価値額構成比については、その他の製造業が14%で最も高く、次いで保健衛生･社会事業が9.6%であり、全国的にも高い状況にある

産業別修正特化係数（生産額ベース）



産業別付加価値額構成比



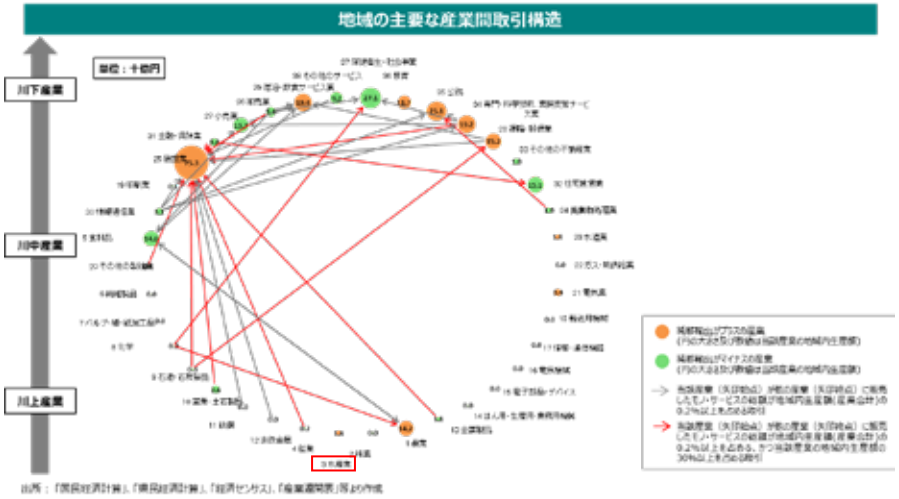
出所：「国民経済計算」、「県民経済計算」、「経済センサス」、「工業統計」等より作成

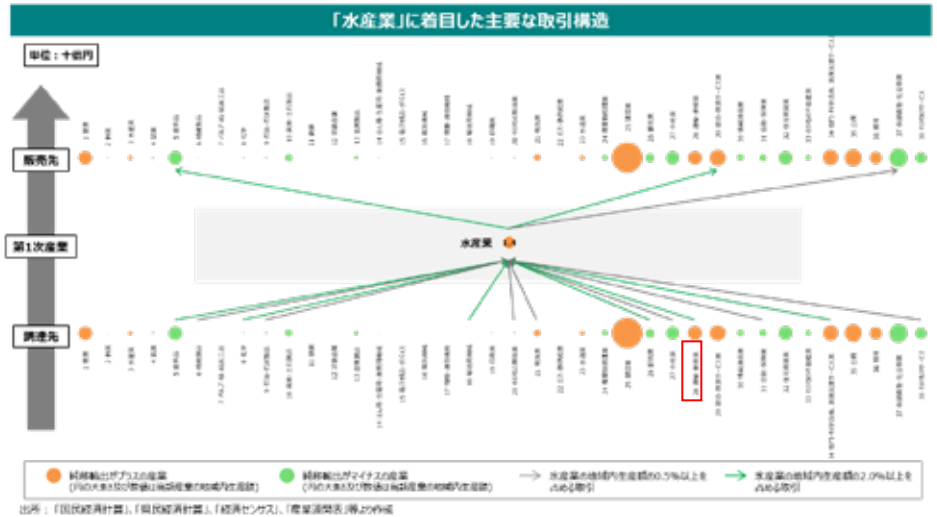
[地域経済]

○宮古島市の水産業は、他の産業との繋がりが薄い（地域内生産額（産業合計）の0.2%以上を占める取引がない）

○生産額は14億円で、上記でも述べたように、純移輸出がプラスとなっており、地域内の需要を域内の生産で賄うことができている。また、運輸・郵便業等からの調達が多く、食料品や宿泊・飲食サービス業への販売が多い状況となっている

○以上のように、宮古島市における水産業は、地域内の需要を域内の生産で賄うことができている。さらに、食料品だけでなく、宿泊・飲食サービス業への販売が多いことから、既存の取組を強化しながら、海業を活用して6次産業化を目指す取組を進めることで、水産業の活性化を図ることが期待できると考える。





池間漁港における海業の方向性

【海業の方向性】
観光と漁業の一体化した「海業の振興」を軸にした地域づくり

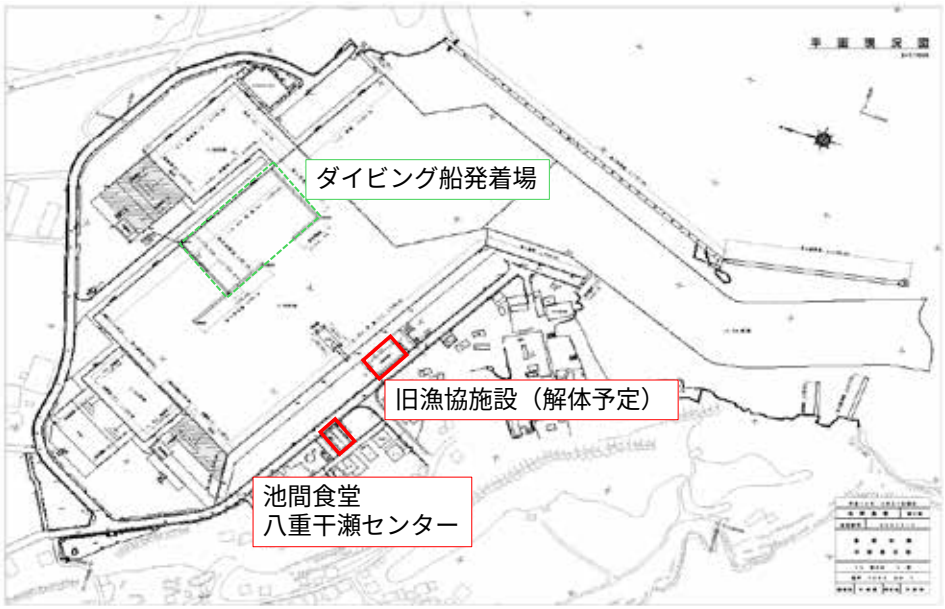
	現状と課題等	海業によってめざす方向性
賑わい・拠点づくり	◆地域の賑わい・活力不足 ・島内への観光客の滞在時間が少ない ・滞在可能な施設が少ない（飲食店、土産物） ・ダイビング客の昼食場が無い（弁当販売もない） ・観光客のシャワー、トイレなどの施設がない ・観光客受け入れ態勢がない ◆漁港施設の活用 ・加工場での特産品開発・販売 ◆水産資源の活用 ・網袋を活用したアサリ資源の回復 ・新たな養殖技術の確立	○加工場・直売所の設置 サメ加工品等の特産品の開発と直売所での販売 土産物、惣菜等の販売 ○食堂施設機能強化 弁当や軽食などの販売 池間食堂を活用した特産品開発 ○観光窓口機能の強化（八重干瀬センター） ビジターセンターや観光情報収集発信組織の設立 避難漁船船員用の簡易宿泊施設 ○漁業体験ツアー 八重干瀬漁船ツアーやサメ漁獲体験ツアープログラムの確立 サンゴ移植体験ツアーやモズク就活体験ツアー等の新規ツアーの検討

海業の事業計画骨子 【宮古島市 池間漁港】 ①

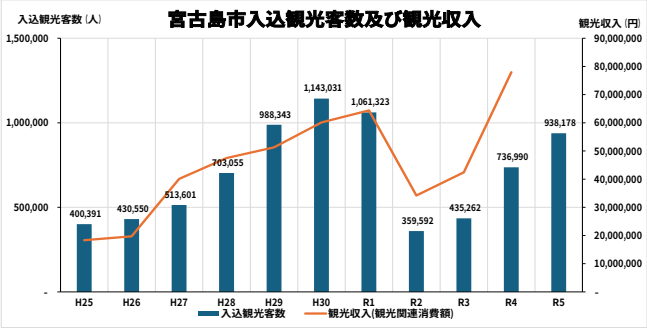
1．現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】
・漁港機能が優れており、避難港やソデイカ等の拠点港となっている
・池間島近海には日本最大級の卓状サンゴ礁群“八重干瀬”が広がり、島内には宮古島から多くのダイビング客が訪れている。
・島内には観光客を受け入れる飲食施設等が少なく特産品も少ないため、滞在時間が少ない。
・漁協は高齢化が進み、新たな担い手や後継者の問題

【海業の現状と課題】
池間漁協では八重干瀬体験ツアーや島内散策ツアー等を観光業者と連携してモニターツアーとして実施している。また、旧漁協施設を解体し、加工場を新設する計画が進んでいる。
・池間食堂が漁港に隣接しており、観光客が利用している
・観光マネジメント可能な人材、組織やビジターセンター等の島の観光窓口がない



■宮古島観光客数・観光収入



出典：統計みやこじま

2．検討体制

【事務局】
沖縄県
委託
おきぎん経済研究所JV

池間漁港の海業振興に向けた協議会

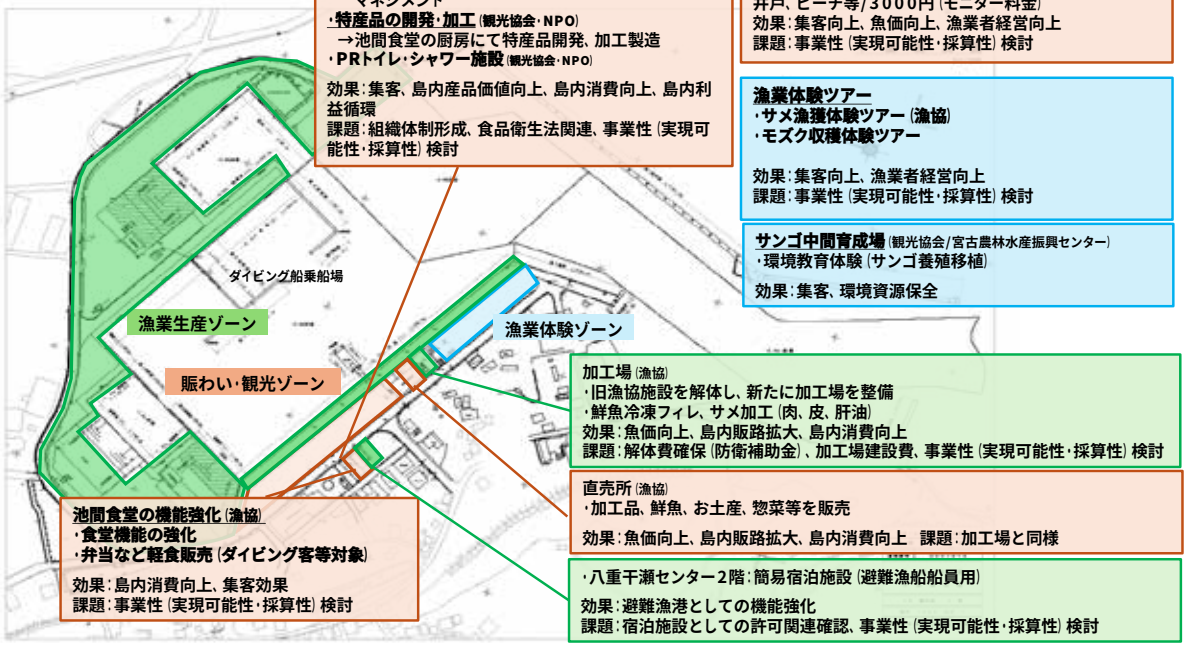
【メンバー】
・池間漁協
・（一社）池間島観光協会
・池間自治会
・池間老人クラブ
・NPO法人いけま福祉支援センター
・沖縄県宮古農林水産振興センター
・宮古島市

海業の事業計画骨子 【宮古島市 池間漁港】 ②

3. 海業の方針

〇池間漁港を核として加工場・直売所で池間島の特産品を製造・販売したり、八重干瀬ツアーやサンゴ保全体験ツアー、島内観光ツアー等の観光ツアーコンテンツを拡充し、池間島への観光客数を増加させることで、賑わいを創出し観光地としての魅力の増大、域内での水産消費拡大、漁村の活性化と漁業所得の向上等を図る。
また、避難港としての機能強化のため、避難船の乗船員のための仮設宿泊施設を運営する。
[取組]
〇加工場の新設に伴う魚類加工製品（冷凍3枚卸）、サメ肝油、サメ肉等の加工製品・特産品を製造する。
〇加工場に併設する直売所による特産品・お土産品・惣菜等を販売する。
〇漁船を活用した八重干瀬ツアーや池間島内観光（陸域）ツアーの企画・販売をおこない、島内への観光客を呼び込む。
〇ダイビング客等の観光客をターゲットとしたテイクアウトランチを販売する。
〇避難船の乗船員のための仮設宿泊施設の設置・運営。

4. 海業の具体的な取組・期待される効果



八重干瀬センター活用
・**観光案内所**（観光協会・NPO）
・**池間島マーケティング部**（観光協会・NPO）
→観光情報収集・発信
→体験メニュー企画・提案、コーディネート、マネジメント
・**特産品の開発・加工**（観光協会・NPO）
→池間食堂の厨房にて特産品開発、加工製造
・**PRトイレ・シャワー施設**（観光協会・NPO）
効果：集客、島内産品価値向上、島内消費向上、島内利益循環
課題：組織体制形成、食品衛生法関連、事業性（実現可能性・採算性）検討

八重干瀬ツアー（漁協）
場所：池間食堂集合
・**八重干瀬体験ツアー**：八重干瀬周辺で釣り,釣った魚調理/6000円（モニター料金）
・**島内散策ツアー**：旧水門、湿地展望台、ナカマグスク、旧井戸、ビーチ等/3000円（モニター料金）
効果：集客向上、魚価向上、漁業者経営向上
課題：事業性（実現可能性・採算性）検討

漁業体験ツアー
・**サメ漁獲体験ツアー**（漁協）
・**モズク収穫体験ツアー**
効果：集客向上、漁業者経営向上
課題：事業性（実現可能性・採算性）検討

サンゴ中間育成場（観光協会/宮古農林水産振興センター）
・環境教育体験（サンゴ養殖移植）
効果：集客、環境資源保全

加工場（漁協）
・旧漁協施設を解体し、新たに加工場を整備
・鮮魚冷凍フィレ、サメ加工（肉、皮、肝油）
効果：魚価向上、島内販路拡大、島内消費向上
課題：解体費確保（防衛補助金）、加工場建設費、事業性（実現可能性・採算性）検討

直売所（漁協）
・加工品、鮮魚、お土産、惣菜等を販売
効果：魚価向上、島内販路拡大、島内消費向上　課題：加工場と同様

池間食堂の機能強化（漁協）
・**食堂機能の強化**
・**弁当など軽食販売**（ダイビング客等対象）
効果：島内消費向上、集客効果
課題：事業性（実現可能性・採算性）検討

・八重干瀬センター2階：簡易宿泊施設（避難漁船船員用）
効果：避難漁港としての機能強化
課題：宿泊施設としての許可関連確認、事業性（実現可能性・採算性）検討

漁業体験ゾーン
[効果]
〇集客効果の向上
〇漁業者の所得向上
〇資源保全

賑わい・レジャーゾーン
[効果]
〇域内での消費拡大
〇域内産業の活性化
〇漁業所得の向上
〇集客効果
〇交流と賑わいのある空間形成
〇観光地としての魅力の増大

漁業生産
[効果]
〇島内販路拡大
〇島内消費向上
〇島内利益循環
〇魚価向上
〇避難港としての漁港機能強化